

## 城西人文研究 既刊総目次

### 創刊号（1973 年）

序	武 市 春 男
『城西人文研究』の創刊に際して	蒔 田 栄 一
ニーチェとキリスト教倫理	木 阪 昌 知
マヤの石造建築における「持送りアーチ」について	貞 末 堯 司
意味と認識	
——パース研究 (4) ——	西 勝 忠 男
シーハラヴァットパカラナ訳註（Ⅱ）	
——第1章 第3・4・5話——	森 祖 道
独白と対話	
——ジョイスとベローの距離——	茂 呂 公 一
ポーにおけるグロテスクとアラベスク	水 田 宗 子
内村鑑三おぼえ書き（その八）	岩 谷 元 輝
人間の社会的構造と疎外	松 浦 孝 作
『靈魂の系図』について	
——Carlyle を中心として——	松 田 福 松
カフカの世界	
——非ユダヤ的ユダヤ人——	山 口 勲

### 第2号——蒔田栄一教授追悼論文集——（1974 年）

巻 頭 言	武 市 春 男
バスク語の単文における語順の文体的価値について	堀 田 郷 弘
内村鑑三おぼえ書（その九）	岩 谷 元 輝
精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1)	木 阪 昌 知
『サムラー氏の惑星』試論	森 哲 夫
「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考	太 田 広
宗教史にみる日本的均衡のメカニズム（Ⅳ）	
——マーケティングと宗教の関連において——	渡 辺 好 章
遠近法と身体性について	山 口 勲

同一性（アイデンティティ）に関する諸問題——その一……	帆 足 喜与子
凉袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻——	黄 色 瑞 華
「紙」以前の書写の用材について——	井 口 大 介
故蒔田栄一教授 追悼……	松 田 福 松
ああ蒔田栄一先生よ……	伊 部 政 一

### 第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

アンデス古代文明の諸問題……	貞 松 堯 司
発見の哲学——パース研究(6)——	西 勝 忠 男
首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——	田 村 正 夫
鉄齋と華山……	小 野 浩 浩
日本民主主義研究序論……	森 田 昌 幸
遠近法と身体性——その哲学的意味——	山 口 勲
Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i> ……	水 田 宗 子
『おらが春』の素材 ……	黄 色 瑞 華
日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで——	堀 田 郷 弘
ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識——	茂 呂 公 一
作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere” ——	萩 原 博 子
司馬遷論……	黒 羽 英 男
三代日本主義の系譜について……	松 田 福 松

### 第4号（1977年）

論理の自律性について——パース研究(7)——	西 勝 忠 男
カントの「定言命法」……	山 口 勲
中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした——	貞 末 堯 司
クレアラ・アン・ペイター覚え書……	萩 原 博 子

## 『教育者としてのショーペンハウアー』から

——ニーチェと自然——	河内信弘
アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動	堀田郷弘
アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学——	陶山 嘯
冷たき牧歌	
——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて——	永井豊実
『おらが春』の素材（続）	黄色瑞華
歌人「安江不空」	小野浩

## 第5号（1978年）

南アメリカの考古学史	貞末堯司
Manorathapūrāṇi 源泉資料年代論	森 祖道
大学英語教育の問題点（上）	鮫島久男
クレアラ・アン・ペイター覚え書（Ⅱ）	萩原博子
『シンベリン』皮肉な遊戯	戸所宏之
カフカ研究の視座を求めて	山口 勲
東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説（1960年2月22日）	
と東京羽田空港におけるインタビュー（2月29日）	堀田郷弘
アンドレ・ジッドの方法（Ⅲ）	陶山 嘯
ニーチェと自然（一）	河内信弘
『おらが春』第一話の設定をめぐる	黄色瑞華

## 第6号（1979年）

ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために	山口 勲
パーソナリティテストとしての SCT に関する一考察	
——特に応用とその解釈をめぐる——	駒崎 勉
ジェイムズ・ジョイスの手法について（Ⅰ）	
——我国におけるジョイス評価の推移——	茂呂公一
A Textual History of Walter Pater's	
<i>Renaissance</i>	Hiroko Hagiwara
マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」——	小野 昌
ニーチェと自然（二）——『悲劇の誕生』——	河内信弘
全集本『おらが春』について	黄色瑞華

## 第7号 (1980年)

## ヤスパースとフッサール

——精神病理学の哲学的基礎—— .....山 口 勲

PANTUN——puisi dan puisi rupa—— .....黄 色 瑞 華

国際水利法に関する一考察 .....土 屋 生

ジェイムズ・ジョイスの手法について (Ⅱ)

——我国におけるジョイス評価の推移—— .....茂 呂 公 一

The Development of the Audiolingual Approach

——Trends in Language Methodology in the United States——

.....Fumiko Tamura

『空騒ぎ』の冥と光——偽りの力学—— .....戸 所 宏 之

「エンディミオン」における映像のあり方 .....永 井 豊 実

『ヴェニスの商人』における Venture について .....小 野 昌

カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉—— .....村 岡 正 明

アンドレ・ジッドの方法 (Ⅳ)——生命の美学—— .....陶 山 嘯

「騎士と死神と悪魔」

——『悲劇の誕生』におけるデューラーの銅版画をめぐる——

.....河 内 信 弘

## 第8号 (1981年)

ヴィトゲンシュタインのケムブリッジ .....山 口 勲

アメリカ文化論 (Ⅰ) .....小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三

シャルル・モーロンの「精神批評」(Ⅰ) .....越坂部 則 道

「高き山々の頂きから」

——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み—— .....河 内 信 弘

思想家としてのニイチェ .....小 野 浩

『四山藁』の俳論 .....黄 色 瑞 華

## 第9号 (1982年)

アメリカ文化論 (Ⅱ) .....金 勝 久

ジョイスのパドバ・エッセイについて .....茂 呂 公 一

# アンドレ・マルローの最初の美術論

《*La Peinture de Galanis*》(1922) について

- マルローの初期の美術論の研究（前）—— .....堀 田 郷 弘  
 シャルル・モーロンの「精神批評」(2).....越坂部 則 道  
 教育場面における夢の活用（Ⅰ）  
 ——その背景としてのフロイトとユング—— .....細 部 国 明  
 身・語・意の三業（*tīni kammāni*）と *carita, saṅkhāra,*  
*samācāra* .....池 田 練太郎  
 詩的コスモゴニーへの論理  
 ——ランボー詩の内的世界—— .....川那部 保 明  
 ハイデガー先生の想ひ出.....小 野 浩  
 [研究ノート]  
 俳諧連歌における謡曲の文句取り（一） .....黄 色 瑞 華

## 第 10 号 (1983 年)

ヴィトゲンシュタイン：太洋の測量技師

- 逆限定のパトス—— .....山 口 勲  
 アメリカ文化論（Ⅲ） .....金 勝 久  
 ジョイスのディケンズ・エッセイについて.....茂 呂 公 一  
 教育場面における夢の活用（Ⅱ）  
 ——夢と宗教—— .....細 部 国 明  
 Zur Entwicklung der deutschen Sprache  
 in der DDR .....Kuniomi Uchimura  
 『失われた時を求めて』における作中人物の出現と  
 話者のまなざし.....北川原 哲 夫  
 カミュと〈他者〉 .....村 岡 正 明  
 [書 評]  
 (Ⅰ) LE DASAVATTHUPPAKARANA  
 Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE  
 (Ⅱ) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA  
 Texte pâli et traduction par Jacqueline VER EECKE  
 .....森 祖 道

〔研究ノート〕

渭浜庵執筆一茶……………黄色瑞華

## 第11号（1984年）

〈人間＝記号〉論について……………西勝忠男

教育場面における夢の活用（Ⅲ）

——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判——……………細部国明

Erühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst – III.

Die Herausbildung der (verbalen) Satzklammer……………藤井明彦

Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den

sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR……………Stefan Wundt

知と自我

——初期シェリング哲学の原理について——……………小林保則

歌人 安江不空……………小野浩

『我春集』の序文をめぐって……………黄色瑞華

## 第12号（1985年）

ロンゴバルディ侵住建国をめぐる諸問題

——イタリア民族形成史の一こま——……………森田鉄郎

教育場面における夢の活用（Ⅳ）

——ユングの宗教夢解釈に対するボスの批判——……………細部国明

ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学

——*Timber* の詩論を通じてジョンソンの詩を読む——……………平松哲司

Die Kommunistische Erziehung und ihre

Wertvorstellungen……………Stefan Wundt

シャルル・モーロンの「精神批評」(3)……………越坂部則道

『我春集』から『株番』へ……………黄色瑞華

〔研究ノート〕

農村集落における精神的ムラ境の諸相

——茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として——……………小口千明

ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権

——「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説——……………畑尻剛

グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉……………鈴木敏夫

## 第 13 号 (1986 年)

巻 頭 言	石 南 國
“鏡”の論理から“魂”の論理へ	
——人間記号論序説——	西 勝 忠 男
北欧中世（スウェーデン）における自力救済慣行	
——実力社会の一考察——	伏 島 正 義
潮湯の偏在性に関する地理学的予察	
——日本における海水浴普及との関連から——	小 口 千 明
ジョイスの“Exiles”における受難の思想について	茂 呂 公 一
Eloisa と Belinda の相違	石 川 郁 二
状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に	
見られる共通特性	鎌 田 精三郎
R. Huch の〈スイスの春〉覚え書	
——研究ノート——	鈴 木 敏 夫
J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって	藤 井 明 彦
ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と	
人物描写について	飯 塚 英 一
エアリエルの材源再考	門 野 泉
パトナム、シドニーの <i>sprezzatura</i> 精神	
——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ヒューマニズム」の対峙——	
	平 松 哲 司
The Dimensions of the U. S. —Japanese	
Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue	古 川 友 章
神話概念の変遷Ⅱ	
——翻訳語としての『神話』をめぐって（上）——	天 沼 春 樹
自己言及のかたち	
——『イリュミナシオン』『生活Ⅲ』と「生活Ⅰ」を読む——	新 宅 巖
フロベールにおける登場人物と場面	大久保 政 憲
『息子』	
——翻 訳——	アルトゥール・シュニッツラー 春 日 正 男
『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅰ	越坂部 則 道
アンドレ・ジッドの方法（Ⅵ）	陶 山 嘯

アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書——

絵画における悲劇的表現をめぐる」の翻訳と解題…………堀 田 郷 弘  
 「シルス・マリーア」をめぐる……………河 内 信 弘  
 日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策…………大豆生田 稔  
 歌人 安江不空・序(3)

——大和歌の問題——……………小 野 浩  
 『志多良』の序文をめぐる……………黄 色 瑞 華  
 高橋克巳論——虚無僧のパトス——……………山 口 勲

## 第 14 号 (1987 年)

Mahāsīvatthera as Seen in the Pāli Aṭṭhakathās…………Sodō Mori  
 キーツの『秋に寄せて』(二)

——第 2 連の情景——……………永 井 豊 実  
 坪内逍遙とシェイクスピア

——帝劇『ハムレット』をめぐる——……………小 野 昌  
 TENSE and TIME in English……………Seizaburo Kamata  
 コシンスキーの『自己芸術』: *Steps* をめぐる……………繁 田 眞 弓  
 Kajii Motojiros “Fliegen im Winter”……………Stefan Wundt  
 E. T. A. ホフマン『さびれた家』

——作話技術を中心に——……………齊 藤 洋  
 バルザックの小説の提示部について……………佐 野 栄 一  
 [研究ノート]

ニーチェにおける詩人

——ニーチェの詩の理解のために——……………河 内 信 弘  
 [研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(一)……………黄 色 瑞 華  
 イェイツの「一エーカーの草地」について

——〈悟り〉か〈狂気〉か——……………小 堀 隆 司  
 アポリネールの恋の詩と真実……………堀 田 郷 弘

## 第 15 巻 第 1 号 (1987 年)

推論の妥当性から〈魂〉の論理性へ……………西 勝 忠 男



“Elegy to the Memory of an Unfortunate

- Lady” と “Eloisa to Abelard” ……………石 川 郁 二  
*Faerie Queene*, Book I における「光」と「闇」……………古 川 啓 二  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句（二）……………黄 色 瑞 華  
 「松のひゞき波をしらぶ」考 ……………安 保 博 史  
 イェイツ「マイケル・ロバーツの二重の幻想」について  
 ——幻滅の狡智——……………小 堀 隆 司

第 15 巻 第 2 号 (1987 年)

- A Study of the *Sihalavatthuppakarana* ……………Sodō Mori  
 The Acquisition of English and the Learner's Attitude  
 ——Motivation vs. Ego Boundary——……………Fumiko Tamura  
 James Joyce の “Exiles” と芥川龍之介の  
 『藪の中』との類縁性 (1)  
 ——人物像を中心にして——……………茂 呂 公 一  
 結婚で終わらない喜劇, *Love's Labour's Lost* の構造……………小 野 昌  
 テオドア・フォンターネ: グスタフ・フライタークの  
 〈借り方と貸し方〉(試訳)……………鈴 木 敏 夫  
 ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』  
 におけるマカーリエ神話……………荻 野 静 男  
 神話概念の変遷 I  
 ——Mythos の語史に関して (上)——……………天 沼 春 樹  
 ニーチェにおける夕  
 ——詩人としてのニーチェ——……………河 内 信 弘  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』の句（三）……………黄 色 瑞 華

第 16 巻 第 1 号 (1988 年)

- ジョイスの “Exiles” と芥川龍之介の『藪の中』に  
 おける卍巴模様の構造と、真相の曖昧さの  
 意味について  
 ——ジョイス受容史への加筆の試み——……………茂 呂 公 一

カミュの「無差異」について……………村岡正明  
 Dostoevskij の小説における思想上の傾向……………シュテファン・ヴント  
 イェイツ「ビザンチウムへの船出」について

——聖なる彼方の詭計——……………小堀隆司  
 バシュラルの死をめぐる

——『バシュラルと過したひと夏』とその研究Ⅱ——……………越坂部則道  
 ニーチェにおける第七の孤独……………河内信弘  
 [研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句（四）……………黄色瑞華

## 第16巻 第2号（1988年）

ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』

——《死の葉》をめぐる——……………春日正男  
 『結婚の生理学』におけるバルザックの政治

と文学の問題……………佐野栄一  
 イェイツの「塔」について

——反復としての回想——……………小堀隆司  
 [研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句（五）……………黄色瑞華

## 第17巻 第1号（1989年）

The Value of the Pāli Commentaries as

Research Material……………Sodō Mori  
 Eloisa は幸福を手に入れるか

——*An Essay on Man* を基にして——……………石川郁二  
 西ベルリンと国際関係

——ドイツ人のベルリン報告——……………シュテファン・ヴント  
 Zur Erzählstruktur in Kafkas

《Von den Gleichnissen》……………Tetsuo Kotani  
 ディオニュソス酔歌（翻訳）……………河内信弘  
 [研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句（六）……………黄色瑞華  
 会員消息欄

## 第17巻 第2号 (1990年)

- 乳児の発達……………細 部 国 明
- モーツァルトの『魔笛』  
——オペラにおける教養小説—— ……………春日 正 男
- A Review of Tesl Method ……………John Parsons
- “詩的に” 考える  
——ハイデッガーの作品『思い出』における  
考えることの本質への問い—— ……………高 島 明
- イエイツ『鷹の井戸』  
——転生のための不可能性—— ……………小 堀 隆 司
- 一人称のバシュラル  
——『バシュラルと過したひと夏』とその研究Ⅲ—— ……………越坂部 則 道  
〔研究ノート〕
- 井泉水編『一茶俳句集』入集の句（七）……………黄 色 瑞 華

## 第18巻 第1号 (1990年)

- 水滴の歌  
——T. S. エリオットの声——……………佐 藤 亨
- 呪文としての文学  
——『アメリカ人の成り立ち』の場合——……………三 芳 康 義
- イエイツ『煉獄』について  
——王の呪詛と断念—— ……………小 堀 隆 司
- アンドレ・ジッドの方法（Ⅶ）  
『法王庁の抜け穴』をめぐる（その1）……………陶 山 嘯  
〔研究ノート〕
- 井泉水編『一茶俳句集』入集の句（完）……………黄 色 瑞 華
- 会員消息欄

## 第18巻 第2号 (1991年)

- The Temple of Fame* における  
過去、現在、未来……………石 川 郁 二
- 中国の古典比喩理論  
——日本と西洋との比較を通して—— ……………楊 麗 雅

〔研究ノート〕

幼児期以後の発達……………細 部 国 明

Changing Views of the West's Impact

on China……………J. H. Parsons

ドイツ民主共和国における拒否的教養小説の

影響力……………シュテファン・ヴント

ワグナーの『ローエングリン』

——引き裂かれた魂—— ……………春日 正 男

〔翻 訳〕

プリンツ・フォーゲルフライの歌

——“Die fröhliche Wissenschaft”にそえられた

ニーチェの詩の翻訳の試み—— ……………河 内 信 弘

アンドレ・ジッドの方法（Ⅷ）

『法王庁の抜け穴』（その2）

——『鎖を離れたプロメテ』と『パリュード』をめぐる——

……………陶 山 嘯

## 第19巻 第1号（1991年）

『恋の骨折り損』の春と冬のかげ合いについて ……………小 野 昌

制度化された学校教育の功罪への問い

——I. イリッチ, K. アウリン, E. E. ガイスラーの

学校論を廻って——……………高 島 明

漱石文学の比喩表現におけるイメージ研究

——夢・絵画・幽麗—— ……………楊 麗 雅

イエイツ「自我と魂の対話」……………小 堀 隆 司

アンドレ・ジッドの方法（Ⅸ）

『インモラリスト』——ソチの観点から ……………陶 山 嘯

〔翻 訳〕

菊池 寛：蘭学事始……………河内信弘, シュテファン・ヴント（共訳）

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(1) ……………黄 色 瑞 華

## 第19巻 第2号 (1992年)

- 道化のコンセプト……………小 野 昌  
 日本語助詞「は」と「が」  
 ——情報伝達の観点から——……………鎌 田 精三郎  
 夏目漱石の比喩論……………楊 麗 雅  
 ガートルード・スタイン：「戯曲」の始まり……………三 芳 康 義  
 〔翻 訳〕  
 中島 敦：『弟子』……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)  
 〔研究ノート〕  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(2)……………黄 色 瑞 華

## 第20巻 第1号 (1992年)

- リルケとロシア絵画——三つの計画——……………安 家 達 也  
 〔研究ノート〕  
 教育評価について……………細 部 国 明  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(3)……………黄 色 瑞 華  
 〔翻 訳〕  
 中島 敦：『弟子(その2)』および『山月記』  
 ……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)  
 慰められるクフーリンと黒い塔について  
 ——イエイツ最後の動揺——……………小 堀 隆 司

## 第20巻 第2号 (1993年)

- G. スタインの「メランクサ」  
 ——“Bottom Nature”を求めて……………三 芳 康 義  
 〔研究ノート〕  
 エーミール・エルマティンガーの  
 「ゴットフリート・ケラーの生涯」(再読)……………鈴 木 敏 夫  
 知能について——知能構造と教育——……………細 部 国 明  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(4)……………黄 色 瑞 華  
 〔書 評〕  
 「会社主義」と法——紹介＝東京大学社会科学研究所編  
 『現代日本社会』(全7巻)——……………述 田 齐

イエイツ「動揺」について（I）

——〈存在〉から遙か離れて—— ……………小堀隆司

第21巻 第1号（1993年）

アンドレ・ジッドの方法（X）

——『インモラリスト』—ソチの観点から(2)—— ……………陶山 嘯

シェイクスピアの『リア王』の材源について……………小野 昌

ワーグナーの『さまよえるオランダ人』

——永遠に呪われた者の救済について——……………春日 正 男

〔翻 訳〕

中島 敦：『李陵』……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(5) ……………黄色 瑞 華

第21巻 第2号（1994年）

アンドレ・ジッドの方法（XI）

——『インモラリスト』—そのマニュスクリを追って——……………鈴木 たけし

坪内逍遙と福田恆存

——劇作家とシェイクスピア—— ……………小野 昌

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(6) ……………黄色 瑞 華

第22巻（1995年）

アンドレ・ジッドの方法（XIII）

——『インモラリスト』—そのマニュスクリを追って(3)——……………鈴木 たけし

〔翻 訳〕

中島 敦：『李陵』（その2） ……………シュテファン・ヴント, 河内信弘(共訳)

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(7) ……………黄色 瑞 華

第23・24巻 合併号（1997年）

シェイクスピアの『リア王』のテイトによる改作について ……………小野 昌

Passion と Virtue の構成

- Eloisa to Abelard*——……………石 川 郁 二  
 イェイツ「動揺」について（Ⅱ）〈承前〉……………小 堀 隆 司

第 25 卷（1999 年）

- 自伝論について……………鈴 木 敏 夫  
 『レノーレ』のケルトの余韻……………永 井 豊 実  
 現代日本語の未完了アスペクトと未来表現……………鎌 田 精三郎  
 アンドレ・ジッドをめぐるエッセー I  
 ——『新感情教育』草稿と『ブルターニュ紀行』  
 をめぐって……………鈴 木 たけし  
 萩原朔太郎『ニーチェに就いての雑感』について……………河 内 信 弘

第 26 卷（2000 年）

- イェイツ「万霊節の夜」について  
 —— その果しなき思惟の詩学 ——……………小 堀 隆 司  
 アンドレ・ジッドの方法（XVI）  
 ——『インモラリスト』—そのマニユスクリを  
 追って（6）——……………鈴 木 たけし  
 「ツァラトゥストラの歌」ニーチェ 1883—1885……………河 内 信 弘  
 〔研究ノート〕  
 嘉永版『俳諧 一茶発句集』全注解（8）……………黄 色 瑞 華

第 27 卷（2002 年）

- リアの 3 人の娘たちと王権の行方……………小 野 昌  
 水戸藩「刑典摘要」について  
 —— 解題と翻刻 ——……………神 崎 直 美  
 〔研究ノート〕  
 嘉永版『俳諧 一茶発句集』全注解（9）……………黄 色 瑞 華